

ID No.S302	
研究課題名	自然炎症制御における核内IκBファミリータンパク質の機能とその破綻
研究代表者	牟田 達史 (東北大学・教授)
研究組織	
受入教員	三宅 健介 (東京大学医科学研究所)
研究分担者	丸山 貴司 (東北大学)
研究報告	
<p>近年、恒常性維持における病原体センサーと内因性リガンドの相互作用の生理的意義、さらにその慢性炎症性疾患発症における関与の可能性が注目されつつある。申請者らは、独自に核内IκBファミリーの一つであるIκB-ζを発見し、IκB-ζを含む核内IκBファミリーの炎症応答制御における機能解析を進めている。平成23年3月の東日本大震災により、建物の倒壊は免れたものの、申請者らの研究室は甚大な被害を受け、一時期研究の続行が不能になった。そこで、本共同研究拠点事業による支援を受けつつ、東京大学医科学研究所の三宅健介教授の助力を得て、計画していた複数の遺伝子改変マウスの作製を進めた。既に計画した遺伝子改変マウスの作製に成功し、今後、これらのマウスを活用しつつ、NF-κB制御の観点から様々な病態における核内IκBファミリータンパク質群の機能とその破綻による病態に焦点をあて、解析を進めることが可能となった。本研究のさらなる推進により、病原体センサーと内因性リガンドの平衡状態維持機構と生理的意義、その破綻による病態の発症機序の解明への貢献が期待される。</p>	